

琉球民族独立総合研究学会 設立趣意書

琉球ぬ島々なん民族的ルーツば持ちゅん琉球民族や独自ぬ民族ど。15世紀半ばぬポルトガル人、トメ・ピレスが書ちゃん「東方諸国記」なんて琉球民族やレケオ人、ゴレス人ちいいやり。くん人きやや正直人間で、奴隷ば買いん、すうんし、たとえ全世界とけ一ていん、どんきやぬま一ば売うん。くん人きやや死ばむさけるんと書かれとりゆる。また琉球国や昔や独立国家なてい「歴代宝案」なんていむ疑いもすらんがなし、あどす諸国とぬ外交関係ば持ち 19世紀中頃なんにや欧米ぬ国々とむ友好条約ば結すだ。

現在、琉球ぬ島々なんにや琉球民族が住で、また日本国や世界各地なんていむ琉球民族が暮しゆり。5年なん一度「世界ウチナンチュ大会」むしっちゃ。2011年や第5回ば数えた。2012年にやブラジルなんてい「第一回世界若者ウチナンチュ大会」が琉球なんていあた。琉球民族や移民先なんていむ生れ島ぬことば忘れらんし、琉球ぬ文化や言語ば守り、琉球民族ぬ文化や言語ば守り、琉球民族アイデンティティ根ば張り続け、世界中なんてい根ば張り続け、世界中なん琉球民族ぬネットワークば形成しいっちゃ。

さらに1609年ぬ薩摩進攻から1879年ぬ明治政府ぬ琉球併合ら今がで琉球や日本、さらに米国ぬ植民地となた。琉球民族や、国家ぬねん民族、マイノリティ民族ちない、日米両政府、またマジョリティぬネーションぬ差別、搾取、支配となた。くっりや例えば1945年、琉球ぬ地ば日本が太平洋ぬ地上戦(=捨て石) っちしゃんことや、1952年ぬん自うんう主権回復ぬため琉球ば質草っちしゃんこと、米国軍政府ぬ戦後27年間ぬ抑圧的支配、また1972年ぬいわゆる日本「復帰」(=日米ぬ密約ぬ伴う琉球最併合)後む日米が日本国土ぬ0.6%ぬ琉球なん米軍基地ぬ74%ば押しつけ続けとんことなどからん明らかど。また現在進行形ぬくととし、1997年米軍用地特別措置法改定し、琉球ぬ土地ば強奪し、また全42議会ぬ反対決議、知事や前市町村長、琉球民族人り人りぬ反対しゅうていむ、2012年、日米しMV22オスプレイば琉球ち、強制配備すらった。くれむはつきりしゃん琉球差別、植民地ど。

日本人や琉球ば犠牲にし、日本ぬ平和と繁栄ば、くれからむ享受し続けようとしゆり。こんまましや我々琉球民族やこれからむ子孫末代まで平和にいきるんことやでけらん。戦争ぬ脅威ぬ中なんて生き続きまいじゃ。日本企業、日本人セトラーによる経済支配が拡大し、日本政府が策定しゃん振興開発計画ぬ実施や琉球ぬ環境や破壊すらり、民族文化に対するん同化政策し、精神ぬ脱植民地化も進んどりゆる。くれや奴隷的境涯ど。

琉球民族や本来独自ぬネーションど。国際法し保護すらつとりゅん人民の自己決定権ば講師しゅん法的主体ど。琉球ぬ地位や将来を決める事ができるのは琉球民族だけど。琉球民族や独自ぬ土地権、資源権、生存権、環境権、発展権、民族自治権、内政権、外交権、教育権、言語権等の集団的人権を有する民族ど。琉球や日本から独立し、すべてぬ軍事基地ば撤去し、新しい琉球が世界中ぬ国々や地域、民族と友好関係ば築き、琉球民族が長年望んでいた平和を希望ぬ島々ば自らの手し作りあげる必要があんど。

琉球民族ぬ独立ば目指し、琉球民族独立総合研究学会ば設立する。本学会ぬ会員や島々なん民族的ルーツば持ちゅん琉球民族ち限定ど。本学会ぬ会員や「琉球民族ぬ琉球民族のためぬ学会」ど。本学会や学際的観点ら琉球独立なん関する研究ばする。学会ぬ担い手や琉球ぬ独立は志す全てぬ琉球民族ど。学問や一部ぬ研究者なん限定しやならん。琉球民族という当事者ぬ直面しゅん植民地主義ぬ問題ば分析し、うれば解決しゅんためぬ思想や方法ば遣唐使、議論し、実践ぬ過程で学問が生まれ、深化し、琉球民族が真に解決しゅんじや。

琉球ぬ独立が可能かいかいきゃしか逡巡すうんがなし、琉球ぬ独立ば前提し、琉球ぬ独立に関する研究、討論ばしゅん。独立しゅんにや何が必要かい。世界ぬ植民地なんていぬ独立ぬ過程、独立前後ぬ経済政策や政治、行政、交際関係ぬあり方、琉球民族ぬ概念規定とアイデンティティ、琉球諸語ぬ復興と言語権ぬ回復、アート、教育、ジェンダー、福祉、環境、マイノリティ差別、格差問題、在琉植民者ぬ問題等琉球独立に関し多角的、総合的研究討論ばし、そして人材ぬ育成ばする。

さらに本学会なんてや同様ぬ独立ば目指す世界ぬ地域等や独立国となたん国等ぬ人んきゃとも研究交流を促し、琉球独立ぬためぬ世界的なネットワークば構築する。学会ぬ研究成果により、国連ぬ各種委員会、交際会議ち参加し、琉球独立ぬためぬ世界的運動も展開しゅん。

日米によって奴隷の境涯ち追い込まれた琉球民族や自らぬ国ば創ることで人間としての尊厳、島や海や空、先祖ぬマブイば守る。

新たな琉球等という国ば創るんことし、過程なんて考えうるん日本政府、日本人、同化された琉球民族、各種ぬ研究者等とぬ議論は打ち負かしゅん理論ば磨くため、琉球民族同率総合研究学会が今ほど求められる時はゆん。我々は人権規約共通第一条に規定すらっとな「人民の自己決定権」に基づき、琉球独立の本来の政治的地位ば実現しゅんことば目指し、市民的および政治的権利に関する国際規約第 18 条「思想、良心および宗教の自由」、第 19 条「表現の自由」さらに第 7 条「少数民族の権利」によって琉球独立に関する研究を琉球民族として推し進める。琉球史上初めて創設された琉球独立に関する学会ぬ活動ばし、うれし琉球民族が植民地という「苦世」から脱し、独自ぬ民族としていぬ平和、自由、平等に生きるられる「甘世」を一日早く実現させるため、本学会ば設立し、琉球独立ば志す全てぬ琉球民族ち参加ば呼びかける。

癸巳四月六日（2013 年 5 月 15 日）

発起人

赤嶺 善雄	松田 正二	平良 修
赤嶺 ゆかり	松田 トヨ	高良 勉
新垣 誠	松島 泰勝	高良 沙哉
新垣 重雄	まよなかしんや	ペルシー 多嘉山
新川 明	宮城 和宏	玉城 毅
安良城 米子	宮城=内海 恵美子	玉城 福子
知花 愛実	宮里 護佐丸	照屋 みどり
知念 ウシ	本村 紀夫	友知 政樹
宜志 政光	宮城 善光	渡名喜 守太
比嘉 豊光	新元 博文	桃原 一彦
外間 三枝子	野村 浩也	上原 成信
池原 順子	大嶺 隆	Mitzi Uehara Carter
稲福 日出夫	大仲 尊	Eric Wada
石垣 金星	大城 慧之	山根 安昇
石原 昌英	大城 尚子	山城 莉乃
兼城 淳子	大田 昌秀	與那嶺 貞子
勝方=稲福 恵子	親川 志奈子	与那嶺 義雄
金城 一雄	崎原 千尋	(アルファベット順)
金城 正樹	佐喜眞 淳	(2015年7月1日現在)
金城 有紀	島袋 まりあ	
喜屋武 幸容	島袋 マカト 陽子	
町田 宗男	下地 厚	
町田 藤乃	Koji Taira	